

京都府飼料用米生産利用推進研究会開催要領

1 開催趣旨

飼料用米の生産は、耕作放棄地の解消や農家所得向上、農村景観維持や環境保全に役立ち、畜産農家が利用することで飼料・食料自給率向上とより安心・安全な畜産物供給を可能にし、さらに畜産堆肥のほ場還元で循環型農畜産業につながることから、今後一層の拡大が期待されます。

京都府では、平成23年度の飼料用米の生産・利用は、10市町で昨年度比2.2倍となる約88ha、440t（粳米ベース）となりました。

その中で、特筆すべきこととして、採卵鶏における飼料用米の本格的な保管・流通・配合体制の確立と、これによる飼料用米給与卵の周年生産・供給をあげることができます。

一方、今後の生産拡大に対応した利用畜種の拡大や、飼料用米生産の効率化・安定化は引き続き追求すべき課題でもあります。

そこで、飼料用米の生産者、利用者はもとより、流通関係者、消費者、行政担当者、学識経験者等にご参集願ひ、これまでの成果を広く共有いただくとともに、次年度以降も見据えたさらなる取組に繋げていくため、研究会を開催するものです。

日 時 平成24年3月6日（火）午後1時30分～4時30分

場 所 御所西 京都平安ホテル 朱雀の間
京都市上京区烏丸通り上長者町上ル（TEL 075-432-6181）

参加範囲 耕種農家、畜産農家、消費者、関係機関等

内 容

- ・ 基調講演 「飼料用米に取り組む地域の課題
——生産と運動の視点から——」
（山形大学農学部附属やまがた
フィールド科学センター 教授 吉田 宣夫）
- ・ 報 告 1 京都生協「さくらこめたまご」の取組
——地産地消のサイクル確立へ——
（京都生活協同組合 地産地消推進担当 福永 晋介）
- 2 飼料用米生産に取り組んで
（農業生産法人 みたけ農産有限公司
代表取締役 伊藤 義信）
- 3 京都府における飼料用米の利用拡大に向けて
——利用畜種拡大への展望と課題——
（京都府畜産センター 主任研究員 佐々木敬之）
- ・ 質疑・交流

主 催 京都府飼料用米生産利用推進研究会
共 催 全国飼料増産協議会
後援・協賛 近畿農政局、京都府
近畿地域飼料増産行動会議